



友部学まちづくり講座 【国際交流について】

第2班 国際交流班

2004/6/22



友部町の現状把握

- 国際交流協会などの組織がない
- 町内には、約380名の外国人がいる
国籍別に見ると、中国が最も多く、次いでブラジル、フィリピン等となっている。
就学や就労の目的で来日している人が多い。
- どこに・どの位、暮らしてるか把握できない
日本人と外国人の交流が活発に行われていないからなのでは？

関係機関への調査

● 隣接市町村

- 内原町（インタビュー先：飯村 健一 さん）
- 笠間市（出前講座 講師：木村 美枝子さん）

● 友部商工会（外国人就労の実情）

- 現在約30名の中国人が就労を目標として来日
- 1年間の語学・技術研修の後、友部の企業で2年間就労
- 3年のプロジェクト終了後帰国するが、その間、地域との交流なし

● つくば国際日本語学院（外国人就学の実情）

- 日本国内の専門学校・大学・大学院への進学を目標に約55名の中国人が日本語習得に励んでいる
- 1年半・2年の2コース / 進学率100% / 地域との交流なし

内原町の場合

- 名 称 内原町国際交流ふれあいの会
- 設 立 平成4年1月
- 会員数 個人会員：約50名
- 活動内容
 - イベントの開催
 - 月1回の定例会
 - 啓発・その他

笠間市の場合

- 名 称 笠間国際交流協会
- 設 立 平成7年3月
- 会員数 個人会員：約130名
団体会員：約20団体

- 活動内容

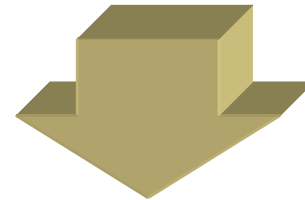
国際交流事業(J I C A ・ホームステイ etc.)

活動支援事業(コロンバス芸術大学・国際交流団体)

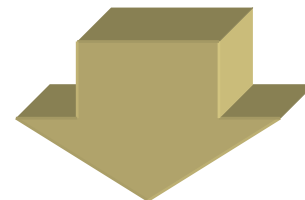
調査・啓発・その他

聞込みの結果

- 彼らの多くは、母国を離れ寂しい思いをする事も多いのではないだろうか？
- 我々に出来ることは何だろうか？



より多くの外国人の方々と交流を持ち、彼らの日本での生活をサポートするためにも、我々も何かイベントを利用して、彼らを招待することは出来ないだろうか！



「北山さくら祭」に国際交流イベントを実施

「さくら祭り」イベントに向けて

- どのような形
- 誰を・何人くらい 招待するのか

今回は、知り合いの外国人を招待する。
各自が「日本の伝統料理」を持ちより昼食をとる。
さくら祭りで行われるお茶席に参加してもらおう。
お土産もあったら喜ばれるのではないか。
招待するにあたり、案内状やちらし等を用意し、
配布する。
今後の参考とするために、アンケートを実施する。

国際交流イベント(北山さくらまつり)

- 実施日 平成16年4月10日(日)午前10時～
- 参加者 20名程度
(中国・台湾・モンゴル・フィリピン・カナダ)
- 場 所 友部町大田町「北山公園」
- イベント内容
 - 日本の伝統文化を体験してもらう
 - 「お茶」の体験 「お花見」の体験
 - アンケートの実施
 - 現状把握 今後の課題

招待状



2004/6/22

お茶の体験



2004/6/22

お茶の体験



2004/6/22

お花見の体験



2004/6/22

お花見の体験



2004/6/22

お土産(絵手紙)



2004/6/22

課題と提案

接点を増やす為にも、様々なイベント等に招待

数ヶ国語の看板にしてもらえるよう、町等に協力依頼

母国語で書かれた町内マップの作成

公共機関・駅・銀行・コンビニ・スーパー等に外国人むけのポスター掲示

積極的に声をかけ、活動に参加していただき、徐々に活動の輪を広げる